

【学校・団体名】 山口県萩市立佐々並小学校

【役職名・氏名】 校長 船木 美弘

はじめに

少子高齢化の波が地域に押し寄せている。中山間地の佐々並地区では、ついに地区の最後の学校である佐々並小学校の休校が現実迫っている。現在、佐々並小学校の児童数は13名、学校創立以来一番少ない児童数である。

令和2年4月、佐々並小学校では最後となる入学式が行われた。当時、佐々並地区の未就学児は0人で、あさひ保育園佐々並分園が休園し、翌年以降の入学予定がなかった。

そして在校生が全て卒業する令和8年度「休校」へのカウントダウンが始まった。何もしなかったら児童数は下記のようにになってしまう。

佐々並小学校 今後の児童数の推移							
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
1年	2						
2年	2	2					
3年	3	2	2				※隣の明木小 →6人
4年	3	3	2	2			
5年	3	3	3	2	2		※旭中学校 →21人
6年	3	3	3	3	2	2	
合計	16	13	10	7	4	2	0
学級数	3	3	2	2	1	1	0

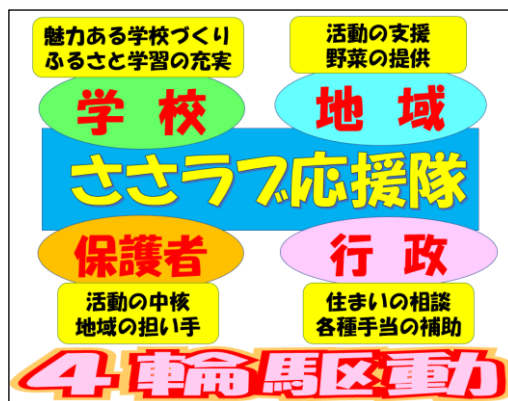
1 「ささラブ応援隊」の発足

休校か学校存続か？どちらか一方しか選択できない。何もしなければ休校になる。

今後の動向を考えるために、令和2年10月に学校と保護者の懇談会を開いて現状と危機感を共有した。休校の時が明確になったことで危機感を募らせた保護者として、「地域の学校はずっと続いて欲しい。子どもたちに母校を残してあげたい。」という思いは切実であった。しかし、保護者や学校だけの努力では限界があった。

そのため、令和2年12月に「今できることを、今やろう」と、保護者、地域、行政そして学校が連携する

「四輪駆動」で子育て家族の移住促進活動を実践する「ささラブ応援隊」が発足した。



2 「佐々並小学校と住まいの見学会」の開催

早急であったが、発足2ヶ月後の令和3年2月に新1年生の確保を目標に「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」を開催した。学校と少人数学級、先進のオンライン授業の魅力を伝える公開授業、児童による佐々並紹介、地域の人と触れ合う地区の散策、行政の支援で移住に必要な住まいを紹介する空き家の見学を実施した。

保護者はポスターを各所に掲示依頼するなどPRに奔走し、地域情報紙やテレビ番組でも紹介された効果もあって7組の子育て家族の参加があった。見学会当日は、地域住民が組織する「どうしんでやろう会」による伝統的建造物群保存地区の案内も行われた。また、参加者のお土産として、地域の方が応援の言葉と共に届けてくださった野菜やお米200kgの提供もあった。



第3回佐々並小学校と住まいの見学会

危機感を持ちながら地域ぐるみで見学会に取り組んだところ、参加7家族のうち3家族から移住希望があった。そのなかの1家族4人の住まいがすぐに決まり、令和3年4月、今後ないと心配されていた佐々並小学校の入学式を実施することができました。学校や保護者だけでなく、地域全体の大きな喜びとなった。

その後も2回目、3回目と学校と住まいの見学会を実施、農業体験活動などのイベントの開催や移住希望者との関係づくりに取り組み、約1年間の活動で計4家族14人（うち子ども7人）の移住が決まった。おかげで入学式も令和7年まで毎年開催できる見込みとなり、地域の関心や支援も広がってきている。

下記は3回実施した見学会の成果(佐々並のキセキ)である。

佐々並小学校 今後の児童数の推移							
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
1年	2	①	①	①	②	①	?
2年	2	2	①	①	①	②	①
3年	3	2	2	①	①	①	②
4年	3	3	2+①	2	①	①	①
5年	3	3	3	2+①	2	①	①
6年	3	3	3	3	2+①	2	①
合計	16	14	13	11	10	8	6
学級数	3	3	4	4	4	3	3

※○の数字は移住で増えた児童数 これまで合計⑦人増加

※旭中 → 21人
※明木小 → 6人
※特支含む

3 大きな課題

けれども今、大きな課題に直面している。

これまでささラブ応援隊で移住促進活動を行い、移住家族が4家族決まったが、実は、まだ移住の問い合わせが数件ある。SMOUT（移住支援サイト）を通して他県からの問い合わせもある。けれども、子育てをしている移住家族が希望する内容の売買や賃貸の空き家がなく、残念ながら移住の話が止まっている。住まいがあれば、子育て家族の移住が可能になるのだが・・・。

子育て家族の移住の主な希望内容は、

- (1) 学校まで歩いて通学できること
(学校まで2km以内 徒歩30分以内)
- (2) 4～5人家族が生活できる広さの家 (3LD以上)
- (3) すぐに住むことができる状態の家

※少しの改修は可能で市の補助がある。

- (4) できれば賃貸

※市の補助が2年間・・・家賃半額※上限2万円、

子ども加算一人5千円または安い販売価格（100万円以内）

これまでに、ささラブ応援隊では移住者の住まいを確保するため、萩市空き家情報バンクへ物件登録を促す活動をしてきた。これまで約50件あまりの空き家を探し出し、家主や関係者と交渉してきたが、諸事情でなかなか空き家情報バンク登録まで進まないのが現状である。主な事情は、家財や仏壇がある、家主が遠方に住んでいるので連絡が取れない、親族の同意が得られないなどがたくさんあげられる。

けれども、これまでの移住促進活動の結果、ささラブ応援隊を通して3件の空き家バンクへの登録が進み、そのうち1軒の移住が決まり、1軒が交渉中である。残念ながら子育て家族ではないが、佐々並地区の人口増となっている。

現状のささラブ応援隊の働きかけだけでは、住まいの確保がうまく進まないことを痛感した。そこでこれらの解決のために、地域全体に呼びかけ、各地区の代表の方や地域のことをよく知る方々に支援をお願いすることになった。

そこで、ささラブ応援隊の役員が協議を行い、「佐々並地区移住促進連絡会」を設立し、かかわる関係者を地域全体に広げて、佐々並地区全体で空き家の活用を考え、空き家物件を確保していくことになった。

そして、4月16日に「佐々並地区移住促進連絡会」を設立するための準備会を行い、厳しい現状を共有し、これからの活動の概要や協議会メンバーの選出を行った。メンバーは、佐々並各地区の代表者や各団体の代表者、行政の方である。そして5月22日に第1回の連絡会を開催し、佐々並地区の空き家物件の情報交換と確保についての協議を行い、地域が連携・協働した活動がスタートした。

4 ささラブ応援隊の「次の一手」

みんなの知恵とアイデアの結晶として、ささラブ応援隊では、移住推進活動の中核に、移住につながる活動「次の一手」を積極的に行っている。そして、それらが地域活性化にも貢献している。

- (1) 行事のコラボレーション

※ 11月20日（日）実施予定

- ①第4回佐々並小学校と住まいの見学会を実施
- ②ささなみおいでん祭（地域の文化祭）の集客力を活用

③大同窓会 → 同窓生に危機を伝える！

佐々並を離れている卒業生に向けて「同窓会だより」を発行して、佐々並小学校や佐々並地区の危機的現状を伝え、Uターンや実家の空き家バンク登録などの協力を依頼していく。

(2) 佐々並地区移住推進連絡会

※5月22日(日)開催

各自治会・各団体・行政・保護者の連携を強化して、住まいがあれば、ささラブ応援隊が移住希望の子育て家族を見つける。また、「空き家再生プロジェクトチーム」の活動を企画中であり、佐々並在住の修理の達人が集まって、空き家をなんとか活用できないかを考えて実働することになった。

① 資料をもとに空き家対応を実施

学校から2kmの空き家15軒をピックアップして、下記のような個別の資料を提示して、それぞれの状況について情報交換を行った。早速、新規の空き家の情報を得ることができ、1軒の空き家を確保することができた。他に2軒の交渉が始まった。



(3) ささラブ学園～ささなみふるさと体験学習

学習支援活動として地域の方が先生役、佐々並の魅力を体感する体験活動を開催。

自然豊かな佐々並で、楽しく元気に農業や自然体験学習など実施。小学生ならだれでも入園可であり、土、日曜日・夏休みの開催は他地区の児童の参加もできる。

【年間計画】

- ① 4月20日(水) あゆ放流教室
- ② 5月7日(土) 田植え教室
- ③ 5月26日(木) いも植え教室
- ④ 6月17日(金) ごま種植え教室

⑤ 7月21日(木) カヌー教室(延期)

⑥ 8月6日(土) 木工作教室

⑦ 9月3日(土) 稲刈り教室

⑧ 10月中旬 アサギマダラ&昆虫教室

⑨ 10月21日(金) いも掘り教室

※ 11月21日(日) 地域の祭り

「おいでん祭」に一緒に参加

⑩ 12月23日(金) 迎春準備教室

⑪ 2月5日(土) ささなみ豆腐

☆ 2月?日 雪ん子教室

(4) ふれあいコンサート

～地域へ感謝 児童のおもてなし～
昨年度は「ちひろコンサート」を行い大好評で、「ささラブソング」児童が作詞、ちひろさんが作曲中である。今年度は10月9日(土)の人権参観日に開催予定

(5) 新しい活動拠点の整備

移住のアシスト、住民の交流の場、観光案内など伝建の「旧阿武萩森林組合」が市の支援により、活動拠点になる予定である。



※令和5年3月に「プレオープン」

(6) マッチング お見合い大作戦!

7月24日(日) プチイベント開催

地域の方の強い要望である。

※萩市出合いの場づくり応援事業補助金を活用

第1回
おいでませ佐々並!
カップリング交流会

佐々並でみんなと楽しく交流しませんか?

日時: 令和4年7月24日(日) 13:30~16:00
場所: 萩市 旭活性化センター
(萩市大字佐々並 2662-6)

対象: 20歳以上の独身で下記の①または②に該当する方
① 市内在住または在勤
② 将来萩市に住む希望がある方

★定員男女各10名程度(定員に満たし次第募集を締め切ります。)

参加費: 500円 ☆佐々並名産のお土産をお届けします!
内容: ゲーム・宝さがし等のレクリエーション
主催: ささラブ応援隊(学校存続・地域活性化を推進しています。)

保護者を中心に企画・運営が進んだ。今後も地域の男性の出会いの場を提供し、温かく見守っていききたい。参加者は、男性15名、女性10名で、定員は各10名だったので、好評だったことが伺える。近隣の市役所にチラシを送ったところ、美祢市でチラシを見て応募された山口市の女性の方がいた。定期的に継続して実施していきたい。

5 当事者としての成果の様子

これらの活動を通して、「つながり」と「やりがい」がいかにか高まるかが成果であると考えている。各活動後に「振り返りの会」を行い、アンケートや直接意見の交換を行い、次の活動にいか生かしていくことにしている。

それぞれの思いや願いは次の通りである。

【ささラブ応援隊と地域住民】

- 住民として何ができるかわからなかったが、地域・保護者・学校・行政ができることを合わせると期待する成果が生まれてくると思った。
- 「地域の子どもは地域で育てたい」。そのためには地域に学校が必要だと改めて知った。子どもの笑顔からたくさんの元気がもらえてうれしいと実感できるようにもなった。
- 移住家族が増えて子どもの姿が多く見られるようになり、地域行事も明るく元気いっぱいの子どもの声が増えてうれしい。
- 佐々並地区だけの問題ではないと思う。みんなで現状と危機感を共有して知恵とアイデアを出し合えば、どこでも必ず「キセキ」を起こせることを実感した。
- 大人の本気に火が着けば、信じられないくらい大きな炎になった。学校存続をめざしてこれからも活動を続けていきたい。

【移住家族】

- 移住を決めたきっかけは、見学会に参加したことである。「一軒家に住んでみたい」、「庭でバーベキューがしたい」がここならできると強く感じ、お土産で頂いたお米がとてもおいしく毎日食べたいとも思った。子どもが学校や幼稚園にあがるタイミングだったこともある。「移住するなら今しかない!」と強く感じた。
- 移住してよかったことは、佐々並の皆さんのおかげで子どもの笑顔が絶えず、自由に過ごせる

環境が一番で、日を増すごとに人の温かさを実感している。

- 生活の変化として、移住前に比べて子どもが外で遊ぶようになった。家の外は全て自然の遊び場であり「子どもが遊んでいる間に食事の支度や洗濯ができる」と、妻の喜びもある。また「近所迷惑だから大きい声を出さない」とか「勝手に外に出ない」という言葉も出なくなり、子育てに余裕ができたことを感じる。



おわりに

まだまだ手探り状態の「ささラブ応援隊」である。学校存続のためには児童数確保が必須である。佐々並小学校は、令和8年度からすべて移住家族の子どもになるが、これが学校存続のための「時代に応じた学校の姿」であると、住民全員が理解の上で移住促進活動を行っている。何もしなかったら児童数が減って休校になってしまう現実がすぐ目の前にある。

萩市の多くの学校の状況はどこも同じである。学校存続のために何ができるのかをみんなで考え、地域全体で実働させていくことが大切である。可能性は無限である。ピンチはチャンス、始めなければ始まらない。これらの取組は、どの学校でもできると考えている。

しかし、成果がなければ活動を持続させるためのモチベーションが上がらないという厳しい現状もある。これらの活動が町全体に広がり、持続可能となり、成果を積み上げていく「軌跡」（足跡）になることを願って「ささラブ応援隊」の活動を進めていきたい。そして地域の小規模校の存続、地域活性化の「期待のモデル」になりたいと考えている。

今年春、県内の3校の小学校の視察があり、その内2校では、学校存続に向けた応援団体として、おのつこ未来応援隊（宇部市立小野小学校）、ウツイミライ研究所（下関市立内日小学校）が発足して活動が始まった。7月に小野小学校で「学校と住まいの見学会」が開催され、3校が情報交換しながら連携して学校存続の活動に取り組んでいくことを確認した。